

2004年9月 紀伊半島南東沖の地震の震源過程

● 概略・特徴： 9月5日19時7分（日本時間），紀伊半島南東沖でMj6.9の地震が発生しました。奈良県や和歌山県で震度5弱を記録するなどかなり広い範囲で地震を感じました。津波も発生し，神津島では0.5m，南伊豆0.4m，室戸0.3m，串本0.3mを観測しました。その約4時間後にほぼ同じ場所でさらに大きな地震(Mj7.4)が起こりました。この地震による津波は串本で0.9m，神津島0.8m，南伊豆0.7m，尾鷲0.6m，室戸0.5mでした。

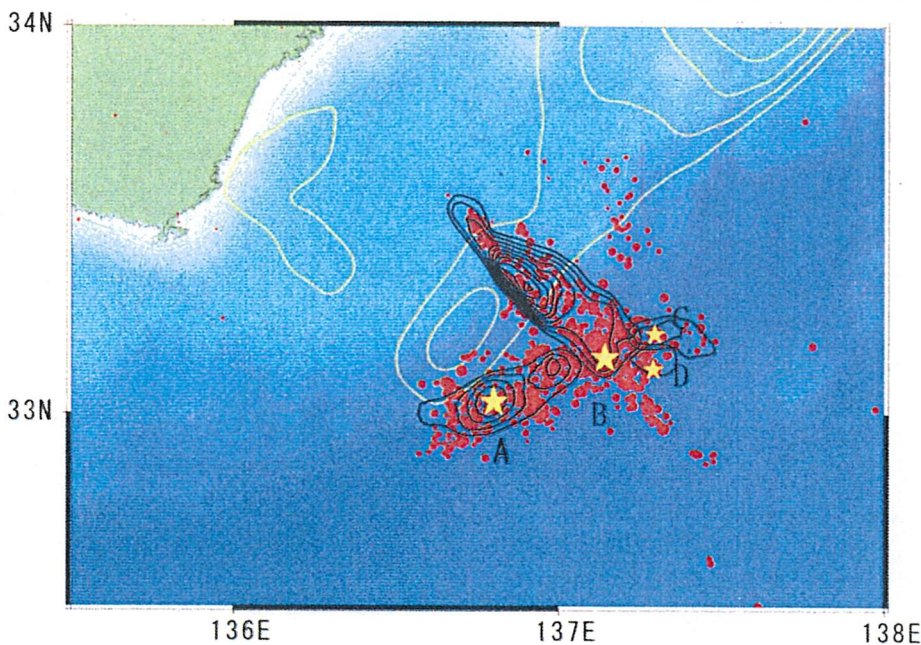
	発生時刻	震央	深さ	M
A:	04/09/05 19:07 (JT)	33.03° N 136.80° E	38 km	6.9
B:	04/09/05 23:57 (JT)	33.14° N 137.14° E	44 km	7.4
C:	04/09/07 08:29 (JT)	33.21° N 137.30° E	41 km	6.4

●データ処理： IRIS-DMC から収集した広帯域地震計記録を用いて解析しました。

●結果： 結果を図1（地震A）、図2（地震B）、図3（地震C）に示します。

主な震源パラメータは次のとおりです。

	メカニズム	H (km)	Mo (Nm)	Mw	Dmax
A	(71, 56, 75)	15	9.8×10^{19}	7.3	3.9 m
B	(320, 57, 115)	13	1.8×10^{20}	7.4	5.7 m
C	(266, 50, 99)	25	1.1×10^{19}	6.6	1.3 m



断層面上でのすべり分布。地震A, Bについては1.5m以上すべった領域を0.5m間隔で，地震Cについては0.6m以上すべった領域を0.3m間隔コンターをひいた。★はそれぞれの破壊開始点である。小さな赤丸は気象庁一元化震源による余震分布（13日まで）